稲 毛 浅 間 神 社

こんにちは。ツッコマー・ゆっきーです。千葉市内にある地図ラー的な萌えポイントを、熱く ツッコミを入れながら楽しく解説していくシリーズです。

通常国会で野党の執拗な追及を何とかしのぎ、私は JR 稲毛駅に降り立った。実はここ最近の地図ラーの活躍にはソ連が関与してるんじゃないかと疑われている。ったく、濡れ衣もいいところなのに…。

日本はこれから AI とか ICT とかでインフラを作り上げて、それができない人は排除したいみたいだ。だから私たちのように紙の地図を持って嬉々として街を歩いたり、1つ1つ図書館とかで資料を探す行為はお気に召さないようだ。

でも、そこにソ連が絡んでるわけはないだろう。Sentence Spring が飛びつくような美味しいネタはそんなにあるはずはない。

そんなこともあって、厄除・八方除のため、私は稲毛浅間神社に向かっている。JR 稲毛駅から 海方面へ歩き、京成稲毛駅を過ぎると左手に小高い丘のような場所が見えてくる。大した高さで はないけど、泥酔して上るのは厳しいくらい、標高でいうと 20 メートルくらいだ。

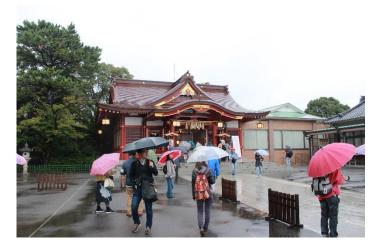


(YAHOO!地図)

この山全体が稲毛公園と呼ばれていて、目指す稲毛浅間神社はその一角にある。ここで、稲毛 浅間神社の歴史を紐解いてみると、中央区にある千葉神社よりは地味だけど、それでもどうして、 なかなかの逸話を持つ神社なのだ。

神社の始まりは808年というから奈良時代のこと。1126年に千葉常胤がこの地を治めるようになってからは代々の千葉氏の信仰も篤く、1187年に再建された社殿は富士山の御姿にならって山が整えられ、富士山道のように三方の参道が設けられた。本社殿は東京湾越しに見える富士山を

正面に望むように作られている。



稲毛浅間神社本社殿

ただ、地図ラー的に萌えるのはこの社殿でもないし、稲毛公園でもない。ここが下総台地の先端部分であるということが大事なのだ。下総地方一帯をカバーする広大な下総台地は、ここ千葉市で海に落ちていく。今は、川が運んだ土砂で沖積平野になっているところもあれば、ここ稲毛のように海食崖になっていたところもある。これは東京湾の海流が時計回りになっていたためで、稲毛の海岸を削った土砂も花園川(草野水路)の土砂もここには溜まらず、今の県庁の方に堆積したと言われている。

そのため埋め立て前の稲毛海岸は切り立った崖が海に迫る、風光明媚な場所だった。かつての海岸線は現在の国道 14 号で、その先には遠浅の海が広がっていて、昔の写真を見てみると、稲毛海岸は一流のリゾート地だったことがわかる。今みたいに週刊誌もなかった大正時代には、文人や財界人は悠々とイイコトしてたんだろうな(笑)。

その火遊びの伝統が、今でも稲毛公園でおこなわれている「夜灯(よとぼし)」に受け継がれているというのはウソ。そんなわけないだろ。



夜灯 (よとぼし)

さらにここではあえて (?) 触れないけれど、日本のワイン王で神谷バーの創始者である神谷 伝兵衛の別荘や、「ラストエンペラー」(清朝最後の皇帝)として知られる愛新覚羅溥儀(あいしんかくらふぎ)の弟、溥傑(ふけつ)と嵯峨公爵の長女、嵯峨浩が新婚時代を過ごした家も残されている。

地図ラー的にオススメしたいスポットは2ヶ所。

1つは国道14号の傍らにポツンと残された鳥居。この浅間神社一の鳥居は写真のように、稲毛

海岸が埋め立てられる前は海の中にあった。海の安全を祈念してということだけど、海水浴の子 どもたちには格好の遊び場だったことだろう。

広島の厳島神社をはじめ、色々な場所に水中の鳥居があるけれど、そこが埋め立てられて陸上 に残された鳥居はないんじゃないかな。こうして歴史を知ることによって楽しみが増えるのも地 図ラーの醍醐味なのだ。



一の鳥居は海の中(千葉市郷土博物館)



今は二の鳥居の向こうに国道を挟んで一の鳥居が見える

もう1つは値上がり、ではなく「根上がりの松」。きっと高度経済成長期やバブル期にはもては やされた、はずはないだろ。稲毛公園の中にある松は、海岸線だったこともあって防風林として 植えられたものだ。しかし砂地だったために徐々に風による浸食が進み、根の部分が露出してし まったものだ。植物的には不幸なことだけど、こうしてプチ名所になるんだから、人生何が幸い するかわからない。



根上がりの松

さて、そんなこんなしてたらすっかりお参りするのを忘れちゃった。地図ラーは夢中になるとほかのことに意識がいかないほど熱中してしまうことがよくある(いわば地図ラーあるある)。でも今日は転ばなくてよかったかも。ここ最近、よそ見をして転倒したことが2回もあり、そのうち1回は肋骨を骨折という憂き目に遭ったので、今度は Amazon で「転ばぬ先の杖」でも注文しなくちゃな。

ということで、結局浅間神社にお参りに行くという当初の目的はどこへやら。そのままお時間 となってしまいました…。ごめんちゃい。 でも、この周辺の旧海岸線と海食崖、そしてその上に立つ高級住宅街、さらに京成稲毛駅周辺の漁村だった街並み、埋立地の方にも遠浅の海を利用した滑走路だったり、水路だったり、けっこう地図ラー的萌えポイントの宝庫なのだ。アップダウンが嫌いじゃない人は、しつこく歩いてみるとかなり楽しめるはず。

ツッコミ担当:田中幸穂

文章・写真担当:小川順一